2024 明治安田 J3 リーグ 第 19 節
6/29（土）19:00 kick off
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest
ヴァンラーレ八戸

順位表
6/27現在
基本 18試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から視て）

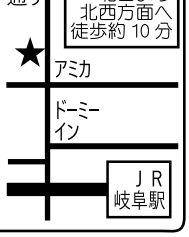
1	大宮	43p	+22	35	13	A●	
2	沼津	31p	+12	30	18	H●	
3	福島	29p	+10	28	18	H○	
4	FC大阪	28p	+6	18	12	A△	
5	富山	28p	+5	21	16	H△	
6	相模原	28p	+5	20	15	A△	
7	金沢	27p	+3	31	28	A△	
8	琉球	27p	+2	26	24	H△	
9	今治	27p	−1	20	21	A○	
10	松本	26p	+5	30	25	A○	
11	岐阜	26p	+3	29	26	---	---
12	北九州	23p	+1	15	14	H●	
13	長野	23p	0	32	32	A●	
14	八戸	20p	−3	15	18		
15	奈良	19p	−6	21	27	A●	
16	YS横浜	17p	−11	12	23	A○	
17	鳥取	17p	−15	17	32	A○	
18	宮崎	16p	−6	19	25	H●	
19	讃岐	15p	−7	16	23	H○	
20	岩手	13p	−25	14	39	H○	

次回HomeGame
第21節 vs.奈良クラブ
7/13（土）19:00
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン
名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休　午後３時から営業
TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩３分。
休：月曜日

今日もここから
串かつで一杯
煮込み串かつ 珍道中
14:30 ～ 22:00 (L.O. 21:00)
※売り切れ次第、終了です
＜定休日：日曜・祝日＞
TEL. 058-252-1580



通算対戦成績	全８試合（J3：８試合） 岐阜3勝 / 八戸3勝 / 2分け　Ｊリーグ岐阜ホーム戦：2勝2分0敗			
直近の対戦結果	2023/11/04 J3 - 34節＠プラスタ	八戸 1-3 岐阜	得点者：萩野滉大,山内寛史,村田透馬	
ここ３試合の公式戦の結果	岐阜	2024/06/22　J3 - 18節＠Ａｘｉｓ 鳥取 2-4 岐阜	八戸	2024/06/22　J3 - 18節＠プラスタ 八戸 1-0 YS横浜
		2024/06/15　J3 - 17節＠ニッパツ YS横浜 1-2 岐阜		2024/06/16　J3 - 17節＠プラスタ 八戸 0-0 宮崎
		2024/06/12　天杯2回戦＠長良川 横浜FM 2(pk)-2 岐阜		2024/06/12　天杯2回戦＠ニッパツ 横浜FC 2(延)-1 八戸

●Ｊ３リーグ 2024 年シーズン。開幕からの好調が一転し、４月からリーグ戦８試合未勝利と急失速してしまったＦＣ岐阜。6/8（土）第 16 節・ホーム沼津戦は、後半９分に＃８荒木大吾のゴールで先制するが、自陣でのミスから同点に追いつかれてしまう。その後も失点を重ねてしまい、１－５で大敗した。続いては 6/12（水）天皇杯２回戦・Ｆマリノス戦。両チームともメンバーを大幅に入れ替えて臨んだ試合は、マリノスに先制されるが、後半 39 分に＃38 新垣貴之、後半 44 分に＃17 田口裕也がゴールを決めて逆転。しかし後半ＡＴに追いつかれ、延長戦の後にＰＫ戦。ついに岐阜が力尽き、今年の天皇杯は幕を閉じた。続く 6/15（土）第 17 節・アウェイ YS 横浜戦は、後半 18 分に＃17 田口のゴールで先制。同点に追いつかれるが、後半 44 分に＃24 粟飯原尚平の決勝ゴールで２－１。２か月半ぶり、10 試合ぶりのリーグ戦勝利を掴み取った。そして 6/22（土）第 18 節・アウェイ鳥取戦でも、後半７分に＃17 田口のゴールで先制。後半 11 分に＃38 新垣、後半 16 分に＃８荒木が追加点を挙げて３点差。その後に１点差に追い上げられるが、後半45分に＃９山内寛史がゴールを決めて、４－２。アウェイ連戦で連勝を達成した。

このリーグ戦３試合の結果、順位としては岐阜は 10 位から 11 位に。首位・大宮が独走態勢に入っており、２位（＝Ｊ２自動昇格枠）・沼津との勝点差を 12 と大きく開けている。一方で、その沼津との勝点差６には 11 位の岐阜も含まれている。そして、岐阜の沼津との勝点差は５。ようやく、暗く長いトンネルを抜け出した岐阜、ここから勝利を積み重ねていければ、まだまだ上位への道は開けてくる。そして今節は、2024 年リーグ戦の前半戦最終戦だ。後半戦は対戦が一巡して相手チームの研究・対策も進むため、より厳しい試合展開が想定される。今節で３連勝を達成して、勢いをつけて後半戦に臨みたいし、直近の２連勝はアウェイでのこと。やはりホーム戦で勝つことが、勢いをつける面でも本当に重要だ。

さて、今節の対戦相手は、ヴァンラーレ八戸。昨季は“Ｊリーグ通算最多指揮・最多勝利”の記録を持つ石﨑信弘氏を監督に招へいして、Ｊ参入以来最高順位となる７位に（なお、石﨑監督は前節の 6/23（日）YS 横浜戦で、Ｊリーグ通算 800 試合指揮を達成。）。今期は石﨑監督体制２年目で、更なる飛躍を目指しているが、今期も現時点では好調と言える状況ではなく、リーグ戦直近５試合の成績は１勝３分１敗・３得点４失点で現在は 14 位。ただし、その５試合で沼津と金沢に引き分けていることは認識しておくべきだろう。

八戸との通算対戦成績は、岐阜の３勝２分３敗・８得点７失点。そしてホーム戦では２勝２分・４得点１失点と相性がいい。昨季の対戦は、3/26（日）第４節・アウェイ戦では、０－１で敗戦。一方の 11/4（土）第 34 節・ホーム戦では、前半に先制されたが後半に逆転して３－１で勝利。今節も、下位である八戸にホーム戦でしっかりと勝利したいところだ。

八戸で警戒すべき選手には、まずは現在４ゴールの＃９永田一真と３ゴールの＃29 柳下大樹を挙げるが、真に警戒すべきはナイジェリア人ＦＷの＃90 オリオラ・サンデーだろう。本人自身は２ゴールだが、その推進力やポストプレーが他の選手の活躍を引き出している。特に、石﨑監督のサッカーは選手の豊富な運動量を持ち味としているため、少しでも油断すると、その波状攻撃の流れに飲み込まれてしまう危険性がある。受けることなく、最後まで積極的なプレーの試合で勝利することを求めたい。一方の岐阜では、石﨑監督が宮崎の監督だった時期に指導を受けた（2017 ～ 2018 年）＃11 藤岡浩介が、かつての恩師の前でゴールを決める姿に期待したい。

そして、前半戦の最終戦である今節は、“岐阜市民総力戦（岐阜市ホームタウンデー）”でもある。多くの観客の来場が予想される中、ホームスタジアムの利を活かして、勝利を掴み取ろう。スタジアムを拍手と声援の音で響かせて、タオマフやゲーフラ、ペンライト等で緑に染めよう。最後までひたむきに走り続ける選手たちの背中を後押ししよう。そして今節こそ、試合終了の後に選手たちと勝利の歓喜を分かち合い、３か月ぶりの“HYPER CHANT”を、このホーム・長良川に響かせよう。（ささたく）

編集部より：
6/27 に、クラブより上野優作監督の辞任（クラブ・フロントへの就任）と、天野賢一ヘッドコーチが暫定監督を務めることが発表になりましたが、当『岐大通』の制作締切後の発表であるため、当該事項に関しては紙面に一切反映していません。ご了承ください。（編集担当：吉田鋳造）

投稿募集！！ gidaidohri@gmail.com

ＦＣ岐阜大好き通信（岐大通）6/29号　編集発行：『岐大通』製作委員会　今号の製作担当：ささたく＆吉田鋳造

【第 16 節】岐阜 1-5 沼津

●サッカーは怖い。たった一つのプレーのミスで、ゲームの流れがガラッと変わってしまうのだから。
この日の岐阜のメンバーには庄司悦大が不在。どんな感じになるのやらと思ったのだが、意外と言っては失礼かもしれないがこれがなかなか良かった。実は後日クラブから発表があったのだが、庄司は試合前日の練習で負傷したとのこと。つまり、ほぼぶっつけ本番のスクランブル体制であったわけで。
しかし、そんなサッカーも先制点を挙げるまで。先制されたことで沼津が前線からのプレスの強度を上げたことで岐阜 GK 上田智輝のミスを誘発して瞬く間に追い付かれ、以後はずっと沼津ペース。逆転を許し、前線のスピードに DF が対応することができず、３点目を許した時点で気持ちが完全に切れてしまった……。齋藤学、川又堅碁と経験豊富なベテランをベンチに置いておける沼津の選手層と、更に効果的な選手交代ができた事も勝因であろう。
結果的に大差は付いてしまったが、岐阜に収穫がなかったわけではない。前述したように庄司の負傷離脱によって急場凌ぎのサッカーを強いられたわけだが、そのサッカーがそれなりにカタチになっていたこと。そして先制点を挙げることができたこと。復帰にはしばらくの期間を要するであろうから、その間にこのカタチのサッカーの精度を上げていくことができるならば、それなりに戦えて上手くすればプレーオフ圏内に食い込んでいくことも可能ではなかろうか。
古橋亨梧。岐阜が育てた英雄の帰還。久しぶりに会うキョーゴは、昔のまんま。変にスレたりスカしてるわけでもなく、サッカーが大好きなサッカー小僧のキョーゴだった。ストップがかかったらしいけれど、可能ならば北西部で練習したいという希望もあったとか。どんだけサッカー好きなんだよ！（笑）
今回の岐阜訪問も彼の方からクラブの宮田会長に電話が入って実現した話だとか。離れていてもこうして岐阜のことを思ってくれてるのは嬉しいこと。願わくばもう一度サムライブルーのキョーゴを見ることができますように。だからこそキョーゴに勝ち試合を見せてあげたかったけどね。（岐阜の誇り）
●試合結果としては、本当に酷いスコアだった。だけど、僕の個人的な見解としては、それほど酷い試合内容ではなかったと思っています。それこそ、最後までワクワクすることに乏しく 90 分が過ぎた北九州戦の敗戦よりは、遙かにマシだと思った。前半の、ボールを持ったら前を向いて推進するサッカーは、２位の沼津と互角にやり合えてたと思うし、ピンチもあったけれど、天を見上げて仰け反るようなチャンスもあった。前半のうちに先制点が奪えれば尚よかったけれど、それでも後半に先制点を奪うことができた……と、ここまでは良かった。この後、８試合勝利から遠ざかっているチームの弱さが出てしまったように思う。攻勢を強めた沼津に対して、慎重になりすぎて体勢を引いてしまった。そして、最近のリーグ戦であまりやっていなかった縦への推進力を重視する戦術で、中盤以降の選手たちの運動量も落ちてきていた。先月の天皇杯１回戦でも、沼津は相当にフィジカルを鍛えているなあと思ってたんだけど、その激しいプレスの為に自分たちでミスをして、同点に追いつかれてしまう。んで、上野監督の采配は攻撃的選手の追加投入だったんだけど、あそこは中盤の運動量を回復させる選手を投入する方が良かったんじゃないかなあ……。そして２失点目は、いつものやられ方。ボールに寄って行ってしまい、人数は足りてるのに逆サイドをガラ空きにして……この辺り、守備戦術をそろそろ改善して欲しいものです。その頃には、岐阜の選手たちの集中力と走力が、完全にガス欠になったようだった。それでも（ホーム戦だし）点を獲りにいくため前掛かりになったところを、カウンター３連発で３失点。まあ５分で４点獲った試合とか、ラスト 12 分で４点獲られた試合とかもありましたからね……（苦笑）。もちろん看過できないプレーもいくつかあったので、その改善は必須だとして、タコ殴りにされてもファイティングポーズを取り続けたチームの姿勢は評価したいと思っています。（ささたく）
●試合後のリリースで、10 番の欠場はケガのせいだと知る。少なくとも２か月くらいは難しいだろうか。ずーっとスタメンだった選手を外した理由が『天皇杯への調整』ではなかったんでホッとした（苦笑）。しかし、カイケンがベンチの理由は不明。彼からの球出しでも問題はないはずなんだが。
ただ、それにしても。たった一つのミスから、あんな結果になるとはね。自己破壊というか、自己崩壊というか。いや、実に見事な、暗転からの奈落だった。しかし、あの雰囲気、あの流れが一瞬で、ああも変わるかね？英雄の凱旋、応援大使のラスト・スピーチにサンクスマッチと今季最多の観戦者。そして、ビッグ・フラッグ。これ以上はないくらいの環境だったよね。
世の中のどんなフィクション、小説だろうがドラマだろうが、あまりにウソ臭くて恥ずかし過ぎて描けないようなドンデン返し。でも、こういう試合でやらかしちゃうのは、もはや、ある意味、伝統芸かな？カンベンしてください（苦笑）。
用兵もよくわからんかった。ユーヤを残しておいた方がよかった気がする。逆転された後の３失点はしかたない。攻めに行ったリスクをカバー出来なかっただけ。ただ、そうは言っても、余りにも不甲斐ないやられ方だったけどね。
４失点にかかった時間は、あの味スタの惨劇より短かったらしい。でも、あの時より喪失感とか絶望感はなかった。それは、披露してくれた試合が納得出来るモノだったからに他ならない。こういうのが見たかった。ただ、それだけにギャップがデカ過ぎて、立て直せるのかなぁ、コレ……って思いがよぎらないでもない。監督交替はやらないだろうと思うけどね。
さて、厳しい日程の中で、どれだけリカバリーできるんだろうか？怖くもあり、楽しみでもあるよね（笑）。（ぐん、）
●テーマにしたいのは１つ。「庄司をベンチからも外してサッカースタイルを変えた理由」だった。
岐阜ボール時、攻撃のスイッチオンのパスはＣＢ川上から縦に出ることが目立った。いままでは庄司が担っていた仕事だ。両ボランチは当然だけどＤＦより前にいる。スイッチオンのパスの受け手が４名→６名になった、しかも懸案だったピッチ中央部で受けるのだから攻撃は活性化するに決まっている。右のガッキーが中に絞ったところに石田が位置取るとか、ここまでポジティブに仕掛けるとは。もちろん、前を厚くすれば後ろは薄くなるけど、そこは戦術と腕（技術）と勇気。前半はスコアレスだったけど、ぼくの気持ちも活性化していた。そして後半、石田→ユーヤ→荒木が押し込み先制。残念だったのはその数分後にトモキのミスで同点に追いつかれたことだけど、それが試合のモメンタムになったとは思わない。動いたのは、やはり沼津が川又に齋藤といった『大駒』を投入し、勝ち越したことで岐阜も攻撃の駒を補充する必要が生じたこと。もっとも、沼津の２人ほどの効果は現れず、後半 40 分近くになると、これまでより多い運動量を求められた岐阜の選手の動きが一斉に落ちた。でも交代枠はすべて使用済。そして『鎖は一番弱い輪から切れる』の諺通りにＣＢゲンちゃんの動きがほとんどなくなって、そこから３失点。だから、荒木が試合後に「1-5 の試合ではない」と話したのも、その点は理解できる。感覚的には 1-2 なんだろうね。
さて話を戻す。なぜ庄司を外し、スタイルを変えたのか。３つの可能性を考えた。①これまでの「庄司が起点のパスまわし」サッカーの限界を『ようやく』感じて変更という可能性。②庄司にアクシデントがあって、今回のスタイルは彼不在の状況を考えた苦肉の策という可能性。③（古くからの観戦仲間が言っていたのだけど）水曜の天皇杯に向けて『相手は J1 だし、リーグ戦より天皇杯の方が目立つ』とのクラブの判断が作用してターンオーバーを掛けた可能性。結果、日曜に庄司の負傷が発表になって、②（スクランブル）だったと判明。だとしたら、最後の３失点は（実は置いとけないけど）置いとくと（苦笑）、「選手はよくやった方なんじゃないか？」という気がし

てきた。庄司の負傷は試合前日の練習中だそうで、ホントに緊急事態。にしては、うまく動いた方だ。
庄司の復帰がいつになるかは、わからない。でも、一つだけ確実なことがある。今季の岐阜がこれまでずっと拘りまくった「パスまわし重視のサッカー」は庄司がいないと出来ない、と監督が認めたに等しい。庄司の代わりが用意出来ない＝スクランブルで戦術変更をせざるを得ないのなら、それはもはや「岐阜のサッカースタイル」ではなく「庄司のサッカースタイル」なんじゃないのか。
さて、庄司の復帰まではそれなりにかかるだろう。彼が不在の間、どうしますか。この試合の２失点目までは機能していた、みんなが働く『共和制サッカー』で結果が出るようにブラッシュアップをかけるのか。その場合、これが成功したら庄司が戻ってきたときにどうするのか。それとも、庄司が復帰したらこれまでの『王制サッカー』に戻せるように、誰かを摂政に立てて乗り切るのか。まあ、摂政が立てられるのなら、この沼津戦で立ててたんだろうけどね。（吉田鋳造）

【天皇杯】
横浜 FM 2-2(pen.5-4) 岐阜

●勝負事に「たら」とか「れば」は禁物とはよく言われたもの。しかしながらあの場所、あの瞬間、もうワンプレー凌げていたら、あとちょっとタイムアップの笛が早く吹かれていれば、などと思った岐阜サポの方も多かったのではなかろうか。
お互い大幅にメンバーを入れ替えての戦い。とはいえ ACL のファイナリストに対してどこまで持ち堪えられるかなというのが試合前の正直な予想。マリノスのサッカーのクオリティがそれほどでもなかったのと、岐阜が要所で踏ん張ったこともあって意外なほどスコアレスのままゲームは進んで、それでもやはり先制はマリノス。植中朝日のアタマに合わせた水沼宏太のクロスは見事。
それでも岐阜がすぐに同点に追い付いて、その後裏へのボールに田口裕也が抜け出して、GK ポープ・ウィリアムを交わしてゴールに流し込んだ。あの時、ちょっとだけ「夢」を見られた気がした。
延長に入って、岐阜は脚を攣る選手が続出してしまったのでプレーを続けるのが精一杯の状況。PK 戦で外してしまった甲斐健太郎を責めることなどできない。残念ながらアップセットを起こすことは出来なかったけど、今後のリーグ戦に向けて糧となるゲームをすることはできたはず。
水曜夜のゲームにも関わらず、多くのマリノスサポさんが来岐してくださって岐阜を堪能して頂いたのは嬉しかったな。（岐阜の誇り）
●リーグ戦で沼津に大敗してから中３日。その中２日後には再びリーグ戦なので、当然ながらターンオーバー。相手もメンバーを落としてきたとはいえ、Ｊ１・ACL 準優勝のマリノス。そして、かつて岐阜に（レンタルだったけど）所属した＃１ポープ・ウィリアムが、その正ＧＫとして長良川に凱旋というのも、また感慨深いものです。さて、厳しい試合になると覚悟していたけれど、挑戦者の岐阜が予想以上の奮闘。いやー、昨年のＪ２・清水との対戦の時にも感じましたが、これがカップ戦の醍醐味ですね（笑）。おそらく、このメンバーと配置では練習試合も経験していないマリノスは、連動した動きに少し欠けるけれど、個々の技術は流石の一言。それを運動量と局面でのデュエルで防ぐ岐阜。前半のＣＫでネットを揺らせたけれど、ファールの判定で無効になったのは惜しかった。まあ、あそこで先制してたら、スイッチが入ったマリノスにタコ殴りにされてた気もするのですが（苦笑）。そして一進一退の攻防が続く時間帯から、歓喜と失望のジェットコースターに突入（苦笑）。いやあ、＃17 田口裕也が抜け出してＧＫ＃１ポープと１対１になって、かわして無人のゴールに流し込んだ、あの流れのなんと甘美だったこと。最後のワンプレーで同点にされてしまったけれど、８分間、本当にいい夢みたわ（笑）。岐阜の詰めが甘いという見方もできるけれど、最後まで諦めなかったマリノスは流石、Ｊ１に君臨し続ける“オリジナル 10”なのだと僕は思いました。延長戦でも決着がつかずにＰＫ戦、それも５人目のキッカーで 120 分走り続けた #4 甲斐健太郎が外してしまい、敗戦。あと少しだったと思うと残念だったけれど、３回戦に進んじゃうと７月に過密日程になっちゃうから（負け惜しみ）。この試合で、選手たちは最後まで走り続けて戦い抜くという、サッカーの一番大事な部分を再確認できたと思う。ここからはリーグ戦に集中できると思って切り替えて欲しい。（ささたく）
●帰路のこともあるから 90 分で終わってね？なんて思っていると、しっかりと PK 戦までいってしまうよね（苦笑）。去年と違って、アウェイじゃなかったのはよかった。
しかし……。ホント、あと、ワンプレーだったのになぁ。最近は、カテゴリーを問わず、ウチ以外のサッカーを見てないんでマリノスのメンバーがどれくらいのレベルなのかはわからない。知ってるのがポープと宏太ぐらい。でも、ガチメンじゃないのはなんとなく。けど、そうは言っても ACL ファイナリスト。圧倒的に、とは言わないが優位を保たれたまま後半へ。ただ、ウチも何回かの決定機を作るんだけど、なんでか知らないがワクに飛ばない。そんなヤキモキする流れを嘲笑うかのような右からのクロスにバックヘッド。あー、ヤラれた～と、心の中で頭を抱えてしまったんだが、そこから追いつくという展開。さらに、事故みたいな勝ち越し点とか、いや、60 分まではなんだったのよ？と。AT も表示された６分を過ぎようとした頃、コレを凌げば、たぶん……と踏んだラストのワンプレーで決められて……。延長ではかなりの選手が脚を止めざるを得ない状態。そんな中での PK 戦。交替出場で脚が動かせる選手から４本は決めたけど、５人目のカイケンは脚が動かず。どっかで見たなぁ、と思ったら、ローズ・ボウルでのバッジョだった。あれから 30 年か。でも、ホント、よくやってくれました。ありがとう！
土曜日に中二日での試合だから、スタメンの選出も大変だろうな。けど、陸が戻ってきたのは心強い。カイケンとのコンビなら、最終ラインはかなり戦える気がする。よし、勝負はアウェイ鳥取戦から、だな！
あと、平日ナイターにも関わらず、当日、翌日と岐阜観光を敢行してくださったマリサポのみなさん、ありがとう！堪能していただけたでしょうか？こんどはリーグ戦で！！（ぐん、）
●あと一歩だったよ。ホントに後半のラストプレーで追いつかれて、延長でも決着つかず、ＰＫ戦。FIFA 基準では延長終了時に同点の場合「試合は引き分け」、ＰＫ戦は先に進むチームを決めるもの。Ｊ３の岐阜はアジア準優勝のチームに引き分けたことになる。ホント、選手はフルに戦いました。しっかり動いて、しっかり戦って。ホントに、ほんの一月前の北九州戦と同じチームなんでしょうかね。
でも、選手の大健闘には割れんばかりの拍手を送るものの、気持ちは全然スッキリしない。リーグ戦の前節・沼津戦では庄司の負傷離脱を受けて、「繋ぎながら崩れてくださいとお願いする」サッカーを捨て、リスクを引き受けてアクティブに仕掛ける選択をしたわけだが、この試合での岐阜はもっとアクティブ。マリノスの中盤が「岐阜を誘っておいてカウンターで仕留めるとかのオトナゲない戦術？」と訝（いぶか）しむくらいにオープンだったからだが、岐阜は好き放題にドリブルで仕掛けていく。守備もガシガシにカラダを張って抵抗する。「ひたすら繋ぐ」に拘ったスタイルは、どこへ？さらに、この試合の後、田口は囲みコメントで「前節（沼津戦）の前半もよかったし、岐阜としてのサッカーもできてきている」と発言していて、結構激しくびっくり。もはや、今季のこれまでのサッカー・スタイルの全否定じゃないか。庄司を中心とした「王制サッカー」に対する「共和制」レジスタンス勢力の台頭と感じてしまう。ホント、庄司がケガから復帰したらどうなるんでしょうね（吉田鋳造）

【第 17 節】YS 横浜 1-2 岐阜

●120 分の激闘だった天皇杯２回戦から中２日のアウェイ戦。当然、スタメンは全員休ませ…ないのね（汗）。そこは監督やスタッフの判断を尊重するとして、ここでベンチにも入れない選手は、怪我なのかコンディション不良なのか…奮起を促したいものです。さて試合は、やはり身体の重い岐阜が防戦となる展開。何度も YS 横浜にいい形をつくられ、シュートを撃たれるけれど、YS 横浜の決定力の低さに助けられてる感じ。一方の攻撃では、記憶にあるのは＃８荒木大吾の１本ぐらい。後半も厳しい展開だったけれど、ＨＴでの修正が効いたのか、あるいは YS 横浜の選手たちも疲れてきたからなのか、前半よりは少し岐阜が盛り返す流れに。すると後半 18 分、ＰＡ角での混戦をスルリと抜け出した＃17 田口裕也が素早く足を振って先制点！いやー、エアポケットとでも言うべき隙間に飛び込んで生まれたゴール、素晴らしかったです。んで、このまま逃げ切りは許してくれないのが現在の岐阜の状況をよく表している訳で。少しフリーにしてしまったとはいえ、ＰＡ外からゴール上隅に目の覚めるようなミドルを決められて、同点に。あれはＧＫ＃31 上田智輝もノーチャンスだよねえ…。んで、なかなかチャンスも作れないから、この試合も勝てないのか…と思い始めた後半 44 分。＃99 イ・ヨンジェのクロスをＰＡで跳ね返されたところに詰めていた＃６北龍磨が、クロス？シュート？で戻して、そのボールの直撃コースにいた＃24 粟飯原尚平が反射的に首を振って、絶妙のコースに変わったボールはそのままゴールに吸い込まれて…２点目！いやあ、かなり幸運が味方したゴールだと思うんだけど、これまで得点するのに苦労してたのにと、僕はなんだか笑ってしまいました（笑）。そしてＡＴ６分の長いこと（苦笑）。そして遂に訪れた、２ヶ月半・10 試合ぶりの歓喜の笛。長かった…2013 年には開幕７試合未勝利ってのもあったけど、あれはＪ２残留争いしてた時期だから…（苦笑）。とりあえず、暗く長いトンネルをようやく抜けることができた。選手たちも悪いプレッシャーから解放されるだろう。この 10 試合の経験を無駄にせず、残りの試合を突き進んで欲しいと心から思います。（ささたく）

●天皇杯の投稿に、「メンバーを選ぶのも大変だろうし、勝負は鳥取戦からだな！」と書いた。そしたら、想像以上にスタメンもサブメンもカラダが重そうで……。スタッツを見るまでもなく、終始、YS に主導権を握られて防戦一方の展開。なんで決まらないんだ？という YS のシュートを何本見たか。（あ、既視感が……とも思ったけどさ。）前半は大吾のシュートぐらいしか見せ場がなかったような気がするよ。そんな流れからでもゴールをこじ開けられるのが 17 番。2 桁得点は通過点。得点王までイってほしい！

一時は同点にされたけど、あのシュートは仕方ない。打たせる前に……とは思うけど、それが出来るコンディションなら、こんな展開にはなってないよね（苦笑）。いや、実に見事なミドルでした。敵ながら天晴れ。

雰囲気が良くないなぁ……と思っていたけど、そんな気持ちをひっくり返してくれたのがあいちゃん。まさかまさかのヨンジェのクロス（あんなコトも出来るんだ！というのは個人の感想。ヨンジェの実力を知らなさすぎるのかも？）は跳ね返されたけど、ソレを拾った龍磨のシュートに合わせての鮮やかな決勝点。いや、もう、泣きそうだった。長く感じた AT はトモキの黄紙を免罪符？として終了。

実に久しぶりのリーグ戦での凱歌。2 ヶ月半は長かった……。選手もスタッフも現地組もお疲れ様でした。ありがとう！

現地に行けなかったけど、観戦は柳ヶ瀬で近日開店のスポーツ・バーで。プレ・オープンにお誘いいただき、ありがとうございました！行けないアウェイはココで、だな。

さて、次は鳥取戦。アウェイ連続はキツいけど、なんとしてでも連勝を勝ち取ってほしいな。（ぐん、）

【第 18 節】鳥取 2-4 岐阜

●大雨と強風の中でのナイター戦。アウェイ連戦だけど、連勝を懸けた重要な一戦。前節で 10 試合ぶりの勝利を挙げ、１週間空いて心身ともリフレッシュした岐阜の選手たちは、リーグ戦４連敗中と苦しむ鳥取に対して序盤から優位に試合をすすめる。チャンスと見るや、陣形が崩れても素早く前にボールを運ぶことを重視し、こぼれたボールは全員の運動量で回収して、２次攻撃・３次攻撃と繋げてゆく。もちろん対戦相手もあるけれど、これが前節まで苦しんでいたチームなのかと思うぐらいに躍動感のあるサッカーで（苦笑）。これで得点が奪えていれば最高だったんだけど。スタッツでも、シュート数が岐阜の９本に対して鳥取は１と圧倒して前半終了。そして後半７分、＃11 藤岡浩介の横パスに走り込んだ＃17 田口裕也が合わせて先制点！後半 11 分には＃38 新垣貴之が相手ＤＦからボールを奪取して持ち上がり、そのまま１人でゴールを決める、技ありの２点目（そしてリーグ戦初ゴール）！そしてそして後半 16 分には、＃８荒木大吾がＰＡ外からのミドルで３点目！よし、これで試合の残りは時間を上手くコントロールしながら無失点で終えること…だと思ったんだけど、その後がいけなかった。80 分過ぎに立て続けに２失点。件の岐阜サポ格言“３点差は危険なスコア”が悪夢のように蘇ってきてしまった（苦笑）。岐阜の選手たちの足が止まりかけてたのと、直前の選手交代で、運動量が豊富だった＃11 藤岡浩介と＃23 萩野滉大を下げたことが影響したかもしれない。いやあ、少し変わるだけで簡単にバランスが崩れちゃうのって、ホント怖いわ（苦笑）。残り５分で非常に緊迫した展開になってしまったけれど、後半 45 分に＃９山内寛史が今季初ゴールとなる４点目を決め、試合を決定づける。結局、４－２で試合終了、連勝達成！最後の試合の締め方に反省点があったけれど、勝って反省できるのは良いことだ。そして、連勝したと言ってもアウェイでのこと。ホーム戦で勝つ姿を、みんなが待っている。（ささたく）

●「3-0 はキケンなスコア。」岐阜サポの間では未来永劫に伝承されそうな出来事から十年近く。しかし、それはあくまで、前半だけでの３得点で。この試合みたいな展開で、そんなコトが起こったらシャレどころの話じゃなかった。DAZN 観戦だったけど、アタマの中で「まさかまさかまさか……」と、同じ言葉がこだましたよ。ヒロフミのシュートがポストに嫌われた瞬間、イヤ～な気分にはなったんだけどね。「あ、息の根、止め損なったな。流れが変わらなきゃいいけど。」と。で、鳥取の選手やサポに「イケるっ！」という雰囲気を醸し出させてしまったことについては猛省していただきたい。全くもってケシカラン！なっとらん！と言いたいのだが……。あぁ、ダメだ。どうしても、頬が緩んでしまう（苦笑）。心の底から「勝てばよかろうなのだぁぁぁ～！」と叫びたい。いや、正直、アレで勝てなかったら、鳥取から戻ってこれない現地組も出たんじゃないか？ホント、勝ってよかった……。

ゴル裏に貼り巡らされたダンマク。その一部はハトメが千切れ、ほっておいたら砂丘まで吹っ飛んでいきそうな強風が吹き荒れる中での４得点。いずれもが美しいゴールだったが、とりわけ、試合を終わらせた４点目。ポッカリと空いたニアのスペースに絶妙のタイミングでパスを出したあいちゃんと、ソレをワンタッチでスッと流し込んだヒロフミ。あまりにも、自然過ぎて、一瞬、あの強風が止んだかのように見えたさ。スゲ～よ、スゴすぎる。コレがサブメンなんだぜ？と誇らしく思うのはあたりまえのコトだよね？なのに、なんで、こんな順位にいるんだろう……？と。

まぁ、それはさておき。選手、スタッフはもちろんだけど、お疲れ様でした＞現地組。報われてよかった。どんな状況でも、いちばん近い場所からの後押しをありがとうございます！今日も勝ちたい！勝ちましょう！（ぐん、）